

鉄鋼概況

高炉大手3社4～6月期決算 大きく改善

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

7月の全国粗鋼生産量は、前年同月比0.5%増と5カ月連続で前年同月実績を上回った。7月の輸出は2カ月ぶりの前年割れだったが、7月として過去2番目の高水準となった。高炉大手3社の4～6月期決算は在庫評価差やコスト削減が大きく寄与し業績は大きく改善した。東南アジアで鉄鋼通商摩擦が相次ぐ中、中国・華南地区の宝鋼集団の湛江、武漢鋼鉄の防城港の2新製鉄所が営業戦略の見直しを迫られている。7月の世界粗鋼生産は、前年同月比2.7%増の1億3,233万トンで10カ月連続前年同月実績を上回った。

~~~~~

### ◆7月鉄鋼輸出、8カ月連続の360万トン超

鉄鋼連盟が発表した6月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比13万3,000トン、2.4%増の561万3,000トンとなり3カ月連続で増加した。在庫率は前月末比9.8ポイント上昇し、146.0%となった。一方、普通鋼鋼材の全国流通在庫は鉄連が行なった全国市中鋼材数量調査によると、前月末比2万8,000トン減の268万7,000トンと2カ月ぶりに減少した。6月の販売量は前年同月比2.3%減、前月比0.9%増の258万1,000トンとなり、その結果、在庫率は2.0ポイント低下して104.1%となったが、31カ月連続して100%を上回った。

主要製品の在庫状況をみると、薄板3品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の6月末の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は、前月末比2万3,000トン増の385万7,000トンと2カ月連続して増加した。在庫率も前月末の2.19カ月から2.25カ月に上昇した。6月末は過去10年平均で6万トン減少しているが、今回は日新製鋼・市川工場の冷延ミルの火災による影響で、前工程の熱延鋼板が増えたのが一因と見られている。主要建材製品であるH形鋼の7月末の流通在庫は、新日鉄住金の建材特約店組織である「ときわ会」の調査によると、前月末比3.7%減の18万9,500トンと2カ月連続で減少した。在庫率は1.92カ月で、適正水準とされる2カ月を7カ月ぶりに下回った。しかし、同社では需給引き締めにはなお一段の在庫削減が必要としている。

鉄鋼連盟が発表した7月の全国粗鋼生産量は、前年同月比0.5%増の929万7,000トンとなり、5カ月連続して前年同月実績を上回った。7月の1日当たりの生産量は29万9,900トンと前月に比して約1万トン減少したが、5カ月連続して1億1千万トンペースの生産を維持している。転炉鋼、電炉鋼の内訳をみると、転炉鋼が前年同月比1.7%増の735万トンと増加したのに対して、電炉鋼は同3.9%減の194万6,000トンにとどまった。電炉メーカーの中には、通常の夏季減産に加えて、電力料金上昇に対応した生産調整を行った所もある。普通鋼、特殊鋼については、それぞれ721万5,000トン（同0.6%増）、208万2,000トン（同微減）となった。特殊鋼は12カ月連続で減少したが、マイナス幅は縮小した。

財務省が発表した7月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比1.5%減の360万7,000トン（前月比1.5%減）となり、2カ月ぶりの前年割れとなった。しかし、

7月としては過去2番目の高水準で、8カ月間連続しての360万トン超を維持している。一方、全鉄鋼輸入は前年同月比4.3%減の62万9,000トン（前月比14.7%増）となり、10カ月連続の減少となった。7月の主要国・地域別輸出では、アジアが前年同月比3.3%減の286万3,000トン、このうち中国は10.7%減の50万1,000トン、NIE'sは4.3%減の112万5,000トン、ASEANが0.2%減の111万3,000トンであった。また、中東向けは2.5%増の13万8,000トン、米国向けが7.8%増の20万9,000トンとなった。一方、主な輸入相手国・地域別内訳は、アジアが前年同月比5.9%減の52万1,300トンで、このうち中国は25.3%減の8万7,800トン、NIE'sが3.2%減の39万5,600トンであった。

#### ◆7～9月期粗鋼生産計画、三四半期ぶり減

鉄鋼各社が策定した2013年第2四半期（7～9月）の生産計画を経済産業省が集計した結果、粗鋼ベースで前期見込み比0.9%減の2,783万3,000トンと三四半期ぶりに減少する。先月に同省が策定した見通し（2,802万トン）に比して19万トン減となる。粗鋼生産減の減は電炉を中心とした夏場の改修減産が主因だが、鋼材生産計画では、同2.9%増の2,431万3,000トンと3期連続で増加する。鋼材生産量は国内向けが前期比1.7%増の1,548万6,000トン、輸出向けが同4.2%増の887万2,000トンとなっている。国内では建築・土木向け鋼材の生産が引き続き好調に推移し、輸出向けでは特殊鋼や鋼管が増加すると見込んでいる。

当計画が実行されれば、2013年度上期の粗鋼生産は5,590万7,000トンとなり、前年同期比2.1%増となる。上期としては3年ぶりに年率1億1千万トンを上回り、5年ぶりの高水準となる。

#### ◆高炉3社通期業績見通し、そろって改善

新日鉄住金、JFEホールディングス、神戸製鋼所の高炉大手3社は4～6月期決算と上期・通期連結業績見通しを発表した。4～6月期の連結経常利益は、新日鉄住金が前年同期比で9.3倍の864億円、JFEが3.6倍の352億円、神鋼が171億円（前年同期比は104億円の赤字）だった。在庫評価差やコスト削減が大きく寄与して業績は大きく改善した。上期見通しは、新日鉄住金は経常利益1,500億円、ROS（売上高経常利益率）は5.5%、JFEはそれぞれ700億円、4%、神鋼は250億円、2.8%と発表した。

表－1 高炉3社4～6月期連結決算

|                | (単位:億円) |      |         |        |
|----------------|---------|------|---------|--------|
|                | 売上高     | 営業利益 | 経常利益    | 当期利益   |
| 新日鉄住金 4～6月     | 12,868  | 560  | 864     | 633    |
| 前年同期実績         | 9,606   | △62  | 92      | △875   |
| 4～9月予想         | 27,000  | —    | 1,500   | 1,000  |
| 2014年3月期予想     | —       | —    | 3,000以上 | —      |
| 2013年3月期実績     | 43,866  | 201  | 769     | △1,245 |
| J F E H D 4～6月 | 8,398   | 250  | 352     | 229    |
| 前年同期実績         | 7,306   | 119  | 98      | 181    |
| 4～9月予想         | 17,600  | 650  | 700     | 450    |
| 2014年3月期予想     | —       | —    | 1,700   | —      |
| 2013年3月期実績     | 31,891  | 398  | 522     | 395    |
| 神戸製鋼 4～6月      | 4,186   | 193  | 171     | 187    |
| 前年同期実績         | 4,341   | △27  | △104    | △322   |
| 4～9月予想         | 8,900   | 400  | 250     | 250    |
| 2014年3月期予想     | 18,600  | 900  | 600     | 550    |
| 2013年3月期実績     | 16,855  | 112  | △181    | △269   |

(注) 新日鉄住金の前年同期実績は旧新日本製鉄

2014年3月期の通期予想では、新日鉄住金が連結経常益で前年度3.4倍の3,000億円、JFEは同3.3倍の1,700億円、神鋼は黒字転換（前期は経常赤字181億円）して600億円とした。自動車や建設向けの鋼材需要増による数量増やコスト削減が業績改善に寄与する。

また、高炉3社の財務改善は急速に進んでおり、D/Eレシオ（負債資本倍率）でみると、新日鉄住金は6月末には1.02倍（3月末：1.06倍）、JFEは上期末には96.3%（3月末：102.4%）、神鋼は14年3月末には1.5倍（3月：1.75倍）と予想している。

#### ◆中国・華南地区の2新製鉄所、戦略見直し

最近、東南アジアで中国鋼材を巡るアンチダンピング（AD）措置など鉄鋼通商摩擦が相次ぐ中で、中国・華南地区の宝鋼集団の湛江、武漢鋼鉄の防城港の2新製鉄所が営業戦略の見直しを迫られている。湛江は2013年5月に防城港は7月に本格的な建設工事が始まり、2015～16年に完工が予定されている。湛江は炉内容積5,050m<sup>3</sup>の高炉2基で銑鉄の年産823万トン、防城港は粗鋼年産920万トン規模となっている。ともに自動車向けを中心とした熱延、冷延、溶融亜鉛めっきのほか厚板の製造拠点を企画している。これが完成すれば、有力ミルが存在しなかった華南地区での現地生産が実現する。両プロジェクトは、華南地区への供給だけでなく、地理的に近い東南アジアへの輸出基地という性格を併せ持つとされてきた。しかし、最近東南アジアでの中国材への通商摩擦が生じ、両所からの輸出は厳しくなるといわれる。

タイではサハビリア・グループが中国材を念頭に政府に働きかけ、合金鋼熱延鋼板でセーフガードが、冷延鋼板でAD措置が発動された。インドネシアではクラカタウ・スチールが中国などからの冷延鋼板でAD提訴し、クロが決定された。マレーシアでは当地のメガ・スチールの求めで、地場のリローラーが調達する熱延の半数はメガ製としなければ、熱延輸入に税務上不利となる制度が実施された。

#### ◆7月世界粗鋼生産、10カ月連続前年比増

世界鉄鋼協会が発表した7月の世界（64カ国）粗鋼生産は、前年同月比2.7%増の1億3,233万トンとなり、10カ月連続して前年同月実績を上回った。前月比では1.1%増となり2カ月ぶりに増加した。中国の7月生産量は前年同月比6.2%増の6,547万トンで、月間最高を記録した5月（6,703万トン）には及ばなかったが、3カ月連続して6千万トンを上回った。7月の64カ国の日産量は、前月比2.2%減と3カ月連続で減少した。中国の日産量は前月比2.0%減と3カ月連続の減、中国以外も2.4%減と同じく3カ月連続の減少となった。新興工業国の日産量をみると、韓国は1.5%減と2カ月ぶりに減り、インドは0.1%増と5カ月ぶりに増加し、ブラジルは0.8%増と3カ月ぶりに増えた。先進国では、EU27が前月比7.8%減と2カ月連続で減少した。北米は2.6%増と5カ月ぶりに増加し、日本は3.0%減と2カ月連続で減少した。

1～7月の64カ国の累計生産は9億2,164万トン（前年同期比2.0%増）となり、年率に換算すると約15億8,700万トンで、前年実績比6,800万トン程度高い水準となる。中国の生産を年率換算すると7億8,500万トン程度となり、同じく前年比6,800万トン程度の増となる。 □